道の駅への期待

（一社）全国道の駅連絡会・道の駅アドバイザー　小山源昭氏

福島県西会津町は以前「健康な町づくり、ミネラル野菜の町」で知られました。従来の耕地をミネラル土壌化し「にしあいづ健康ミネラル野菜」として売り出しました。味も食感も絶品です。タイミングよく道の駅「にしあいづ」の目玉産品となり、地域連携ブランドになったのです。ミネラル野菜使用の「ふるさと薬膳レストラン」が人気で、今も変わらぬメニューで提供しています。

道の駅「しもごう」は、周辺に民家も明かりもない峠の駅。しかし、ここにしかない恵まれた四季の自然景観環境があります。これを道の駅の景観ブランドにしよう、併せて道の駅のオアシス化を試みようと考えました。

眼下に見下ろすテラスでのトラジャコーヒー。近くの牧場と組んで、当時としては珍しい「ジャージー乳ソフトクリーム」を提供したら、年間7万本の大ヒットになりました。

進化する「道の駅」～駅長当事者の想い～

福島県会津若松市のゼネコンで建築設計業務の傍ら、まちづくり、景観づくり等の社会活動に寄与。2003年道の駅「にしあいづ」、08年道の駅「しもごう」それぞれの立ち上げから両初代駅長。16年から現職。道の駅に関わって20年。

何をブランド化し「今だけ、ここだけ、あなただけ」の売りを作るのは、駅長や社員・スタッフの知恵です。それを生み出すモチベーションをいかに向上させるかが日ごろから大切で、道の駅利用者の方々や町民からいただくエールは大きな力になります。だから人との触れ合いをいつも大事にしたいのです。

道の駅をプロ野球に例えればオーナーが首長、監督が駅長、選手は社員やスタッフ、球場が道の駅、観客数が来場者数、視聴率が魅力度、売り上げ大がAクラス、小がBクラスとなるでしょう。成績が良ければ駅長を続けられ、逆ならオーナーとの話次第で自ら身を引くか、解任されるかです。駅長はこのくらいの覚悟がなければ務まらないほど、職務は重要だと思います。

昨今、これからの道の駅のあり方が問われています。成り行き任せで乱立する道の駅、ますます商業化する道の駅、公的施設・公共施設として明らかに逸脱している道の駅、社会の変化により衰退する道の駅などさまざまです。その一方で、しっかりと道の駅の基本コンセプトを維持しながら、創意工夫をこらし、地域の拠点を実感できる道の駅もあります。

「わざわざ行きたい道の駅、なんべんも行きたい道の駅」が私の目指す駅です。道の駅「しもごう」の開所式で湯田雄二町長（故人）が力強く宣言した言葉です。これからも残されたパワーを生かし、道の駅のさらなる高みへの取り組みに、サポートし続けようと考えています。